

鹿骨東小学校



ふるさととしての学校

校長 中田 伸代

「うさぎ追いし かの山、小鮒釣りし かの川」と唱歌「ふるさと」で歌われたような昭和の原風景は、都市化が進んだ東京ではあまり見られなくなりました。しかし鹿骨東小学校はちょっとちがいます。学校の周りを歩いていると、親水緑道で網やつり竿を持ってお魚を捕っている子供たちを見かけます。校内を歩いていると、教室前の廊下にはアオスジアゲハやナミアゲハの幼虫たちが、みかんやグレープフルーツの葉っぱをもりもりと食べて大きくなり、学校で羽化して子供たちの手で大空に返されて行きます。

朝登校してくる子供たちが、カナヘビやダンゴムシ、小魚などを大切そうに持って来て、見せてくれることもあります。本校には1年生から6年生まで、地域の生き物や自然に触れ、それを大切に育てる雰囲気があります。

また、先日4年ぶりに行われた区民館まつり。本校の6年生が鼓笛のパレードで出場しましたが、沿道には沢山の町会のテントが立ち、テントを覗くと、本校の保護者の皆さんが暑い中、焼きそばを焼いていたりと、祭装束に身を包んで、格好良く周囲を歩いていたりと地域の一員として祭を支え、楽しんでいらっしゃる姿が多く見られました。今年は本校校庭で行われる町会の盆踊りや、PTAの骨っ子まつり、相撲教室も復活します。

PTAの役員の皆様、おやじの会、グリーンボランティア、図書ボランティアの皆様、見守り隊の皆様、ふるさと学習の講師の皆様のように、長い間、学校を支えてくださる皆様もたくさんいらっしゃり、学校の行事や学習を行うことができます。さらに、本校の教員や地域や保護者の皆様の中にも、本校の卒業生の方がたくさんいて、本校の教育活動を熱心に支えてくれます。本校で40年以上続く御神楽を、家族兄弟で踊れる方もいることでしょう。とても、素晴らしいことだと思います。

今、教員のなり手が少なくなり問題となっています。しかし、昨年チャレンジ・ザ・ドリームで体験に来てくれた鹿骨中学校の生徒さん（本校の卒業生）が、最後の挨拶で「自分の夢は自分のふるさとである鹿骨東小学校で学んだことを生かして、いつか小学校の先生になることです。」と嬉しいお話をしてくれました。彼女のように、鹿骨東小学校で学んだことが一人一人の子供たちの力となり、社会で役立つ人材になって、また地域に戻ってきて欲しい。そして、お世話になっている地域や保護者の皆さんの後を次いで、地域を支えていって欲しいと心から願っています。そのために社会に出て役立つ「確かな学力」と「生きる力」を身に付けられるよう、そして時代が変わっても「ふるさととしての学校」として沢山の良い思い出をもち、胸を張って卒業していけるよう、教職員一同尽力していきたいと考えています。

今週末の運動会。4年ぶりに参観者の人数制限を無くしての実施となります。混雑が予想されますので、皆様譲り合ってご参観頂けたらと思います。ご自分のお子さんの出番以外の時は、図工室と体育館及びすすく前広場を休憩所として解放いたしますので、校外に出るか休憩所で涼んでお待ちください。外靴を入れるビニル袋などをお持ち頂きますようお願いいたします。



長い間本校の「ふるさと学習」で釣りしのお作りを子供たちに教えてくださった、萬園（よろずえん）の深野 晃正様が4月8日に急逝されました。6年生の子供たちに優しいまなざしで釣りしのお作りを教えてくださいました。心よりご冥福をお祈りいたします。

